

施策調査専門委員会の検討状況について

【第 73 回施策調査専門委員会 (R8. 1. 16)】

- <議題>
- 1 事業モニターチームとの連携について
 - 2 施策懇談会に向けた議論について
 - 3 最終評価報告書の構成検討等について
 - 4 河川・水路事業の取組事例集の作成状況（中間報告）について

<主な意見等（要旨）>

【議題 1 事業モニターチームとの連携について】

- モニター箇所（候補地）の選定について、委員会から事務局に対し提案し、事務局がモニターの実績やメンバーの状況を踏まえ、ある程度決めるというプロセスで来年度試行的に始めてはどうか。ある程度事業や場所が絞れた段階で、専門家を交えたモニターチームの会議を設定し、事業に関するストーリー（進捗や課題）を共有し、把握した上でモニターを行ってもらおう。
- 事業モニターの実施日より前に、モニターチームと事務局、専門家とでストーリー（事業実施の経緯、現状や課題等）を共有し、理解してもらうことが重要。評価シートの項目の中に、専門家から見てほしいポイントを組み込むというのも連携の一つ。
- 大綱期間の最終年度であるため、次の 20 年に向けた方法論の再検討が重要である。令和 8 年度は、モニターの回数を減らし、その分を検討会議に充てるなど、方法論の再検討を行う一年と位置づけ、従来の考え（任期の間に全ての事業をモニターする）に囚われず、森林事業も含めて試行的に 1 度やってみてはどうか。

【議題 2 施策懇談会に向けた議論について】

- 施策懇談会の議論の対象が令和 9 年度以降の事業となると、現行事業と今後の事業の違いを整理し、それに向けての体制を確認・共有した上で、議論に臨む必要がある。
- これまで施策の点検・評価に県民意見をしっかり取り入れるという点まで考えに至っていなかった。委員会の立場としても、枠組みそのものを工夫していかないといけない。
- 委員会が報告書の作成に追われがちなので、次の 20 年では、評価報告書の作成と実質の議論をする会合を分けなければならない。自身の経験から、余裕がなく、十分に議論ができていないというのが実感である。この点については、制度や体制を変えないと物理的に無理かと思うので、検討いただきたい。

【議題3 最終評価報告書の構成検討等について】

- スケジュール・構成案については、原案のとおり進めることとした。
- 今後、最終評価報告書を作成することとなるが、森林などを対象とした取組となると生物学的にすぐには効果が出ないものである。神奈川の報告書は比較的中期に渡り取り組んだ成果が記載されるものになるため、多くの研究者が注目することとなる。こうした先進的な取組を踏まえ、どのような効果があるかを後世に残す際にはこうした点も踏まえ、作成する必要がある。

【議題4 河川・水路事業の取組事例集の作成状況（中間報告）について】

- モニタリング結果で水質、動植物の結果が記載されているが、実施前と実施後でどのように変わったかを分かりやすく記載する必要がある。
- いつも議論をする際に市町村へのフィードバックという話となる。今回事例集ということで、市町村の声も書いてあるが一言程度になっている。担当者が変わるなど状況も承知しているが、当時のことを振り返って記載できるか検討いただきたい。
- 事業を実施した箇所が分かる全域の地図があるとよい。
- 事業前後の変化が分かりにくいので、事業前と事業後の比較を入れたほうがよい。
- データが揃っていない箇所もあるが、データを取らなくてよいというわけではないため、事業前にはしっかりデータを取るという点を記載いただきたい。
- 厚木市の整備箇所の地図がすべて同じものとなっている。全体の事業の外観が1枚の地図で収まっている方が分かりやすいと思う。また、地図にはスケールと方位の情報は記載いただきたい。

【第74回施策調査専門委員会（R8.2.18）】

- ＜議題＞
- 1 令和6年度点検結果報告書及び同概要版について
 - 2 令和8年度事業モニターのテーマ検討について
 - 3 県民参加の仕組みに対する提案書の作成について
 - 4 令和8年度施策調査専門委員会スケジュールについて

【議題1 令和6年度点検結果報告書及び同概要版について】

- 5か年の何年目か分からないので、報告書内に記載した方がよい。
- 章立て（見出し）について、「はじめに」を「序」とするなど、整理したほうがよい。
- 1-3ページの森林塾の課題に関して、林業大学校ができ希望者の選択肢が増えたことも背景にあるかもしれない。有効求人倍率だけではなく、背景に足すといいのでは。
- 6-1ページに具体例として書いたカワムツは国内外来種のため、記載については検討が必要。
- 概要版に昨年度実施したハイブリッド形式のシンポジウムの内容を記載しているので、点検結果報告書の全体総括にも記載する必要がある。
- 委員の意見照会結果（No.21「PAC処理」への意見）への回答としては、9-5ページにアルカリ剤添加の記述があるので、そちらを案内する内容にした方がよい。
- 年の表記について、和暦と西暦を併記してはどうか。

【議題2 令和8年度事業モニターのテーマ検討について】

- 事業モニターチームとの連携として、令和8年度に試行で行う際の事業モニターのテーマを議論した結果、事業モニターチームへ提案するモニターの候補は次のとおり。

- ・候補1：（テーマ）針広混交林などの目標林型への誘導について
（対象事業）1 水源の森林づくり事業の推進
- ・候補2：（テーマ）林業経営の持続可能性について
（対象事業）4 間伐材の搬出・促進事業
- ・候補3：（テーマ）生息密度の高い地域におけるシカ管理について
（対象事業）2 丹沢大山の保全・再生対策
- ・候補4：（テーマ）森林整備等による生態系の健全化について
（対象事業）1 水源の森林づくり事業の推進

- 候補1について、県内の森林全体のどの程度が順調にしているのかといったデータも必要である。また、うまくいっている箇所だけでなく、そうではない箇所も見ていただいた方がよい。
- 候補2について、今後に繋げていくために森林経営に関しては、経済的収益性や雇用が持続的に可能かなどとても重要だと考える。現場の方の話を聞ける機会だけでもあ

ると良い。

- 候補3について、シカ管理のみをテーマにモニターすることは難しいと思われる。目標林型への誘導についてのストーリーを考えていく上で、シカ管理は必ず重要な要素となるため、候補1と併せて検討してはどうか。
- 候補4について、生態系の健全化と目標林型について、自然環境保全センターでモニタリングを行っているが、調査地が重なっていることが多い。シカ管理も関わってくるため、候補1と3と併せてストーリーを検討していくことも可能。

【議題3 県民参加の仕組みに対する提案書の作成について】

【議題4 令和8年度施策調査専門委員会スケジュールについて】

- 提案書の作成に向けては、既存の会議に加え、四者協議会などで別途議論する場を設けたほうがよい。
- 3月の県民会議で構成だけではなく、主なポイント、重要な点を整理できるものだけでも書き出しておいていただくとよい。
- 7月の施策懇談会に向けて、提案書の原案を早めに共有し、確認の上、施策懇談会に臨んでいただきたい。
- 翌年6月の施策調査専門委員会については、2時間ではなく、3時間見込んでおいた方がよい。